

第7回 東京湾海洋環境シンポジウム

生き物たちの東京湾：生物調査から見た東京湾環境

日時： 2015年10月7日（水）13:00 開始

場所： 東京海洋大学品川キャンパス楽水会館

<http://www.s.kaiyodai.ac.jp/access/index.html#acc02>

参加費： 無料，事前登録なし

主催： 東京湾海洋環境研究会

後援： 東京大学海洋アライアンス
東京湾再生官民連携フォーラム

<プログラム> (仮)

1. 趣旨説明 (13:00~13:20)

東京湾海洋環境研究会事務局長
野村英明 (東京大学海洋アライアンス)

2. 研究機関による調査 (13:20~14:40)

1) 東京湾20定点調査

堀口敏宏 (国立環境研究所)

2) 環境省モニタリングサイト1000，盤洲干潟ベントス調査

多留聖典 (東邦大学)

3) 国指定谷津鳥獣保護区の保全に向けた取り組み

川口 究 (いであ株式会社)

4) 自治体による水生生物調査

風間真理 (東京都環境局)

休憩 (14:40~15:00)

3. 市民活動による調査 (15:00~16:00)

1) 行徳鳥獣保護区江戸前干潟研究学校

野長瀬 雅樹 (NPO 法人行徳野鳥観察舎友の会)

2) 江戸前アサリ「わくわく」調査

井芹 絵里奈 (国土交通省 国土技術政策総合研究所)

3) お台場海浜公園～潜水調査でしか分からない底の話～

尾島雅子 (東京港水中生物研究会)

4. 総合討論「生物モニタリングと東京湾再生」 (16:00~16:20)

司会 野村英明

5. 閉会の挨拶 (16:20~16:30)

東京湾海洋環境研究会 会長 風呂田利夫 (東邦大学)

趣旨：

東京湾で起こっている海の問題は大人気を抱える流域圏の人間活動を反映しています。こうした問題を解決するためには事実を科学的に理解することが必要です。今日では水質、赤潮、貧酸素水について公共の情報が充実しています。しかし、生態系全体を理解するには十分とはいえ、有機物を分解する微生物、魚介類の生態など不明な点も多くあります。今日、ポストの削減や特定領域への研究費配分からこうした分野での研究者は減少しているのが現状です。

昨年の東京湾大感謝祭でのミニシンポジウムで、今、誰がどんな東京湾の研究/調査をしているのかがわからないことが指摘されました。そこで本シンポジウムでは東京湾における研究/調査の実施状況を調べることを目的に、「第16回東京湾シンポジウム」と連携して、広く声かけを行いました。

さらに2012年に行われた第6回東京湾海洋環境シンポジウム(*1)の総合討論「海域-流域の空間がバナンスを考える」では、モニタリングの成果と環境再生をどう結合していくのか、質の担保や継続方法などの課題が上げられました。そこで本研究会は、今回、東京湾で行われているモニタリング手法を用いた生物調査に着目し、調査に関わる研究機関、市民活動のみなさまに講演をお願いしました。

東京湾の状況を把握し、科学的合理性のある解決策をつくる、そのためには生態系の全体像がわかるようなモニタリング研究が不可欠であり、その成果が公開され継続するシステムが必要です。将来的には、市民に親しみやすい生物についてのモニタリング情報のみえる化と共に、多方面で行われている東京湾の研究/調査を一覧出来るようにしていきたいと考えています。

<お知らせ>

1. 第16回東京湾シンポジウム

日時：2015年10月23日(金) 13:00~
場所：横浜赤レンガ倉庫1号館3階ホール
主催：国土交通省国土技術政策総合研究所

- - - - -

2. 東京湾大感謝祭2015：東京湾の恵みに感謝して、東京湾を考える

日時：2015年10月23~25日
場所：横浜赤レンガ倉庫(広場・1号館, 周辺海上(象の鼻栈橋, 運河パーク))
主催：東京湾再生官民連携フォーラム・東京湾大感謝祭実行委員会 <http://tbsaisei.com/fes/>

<東京湾海洋環境研究会とは>

東京湾の環境を再生するには長期的なビジョンとそれに基づく政策が必要です。ビジョンや政策には科学的な合理性が欠かせません。本研究会の目的は東京湾の再生への取り組みを科学者の立場から支援することです。

1996年11月、日本海洋学会環境問題委員会(現在の海洋環境問題研究会)が世話人となり東京湾の水域環境に関係する学会に働きかけ、11の関連学会が共同で「第1回東京湾海洋環境シンポジウム」を主催しました。このシンポジウムの実行委員会が本研究会のはじまりです。実行委員会は活動を継続して、

最終的に17の学会団体が集まり東京湾再生に向けた提言「東京湾：人と自然のかかわりの再生」(恒星社厚生閣)を2011年に発表しました。提言を取りまとめた時点で実行委員会は組織として解散しましたが、後継として本研究会が新たな研究者を加えて再出発しました。本研究会は研究者のネットワークとして東京湾再生官民連携フォーラムなど様々な場で活動しています。提言概要(*2)は日本海洋学会のホームページで御覧になれます。

(*1) <http://kaiyo-gakkai.jp/jos/wp-content/uploads/2013/11/2012Aoiumi-sympo-Furota.pdf>

(*2) http://kaiyo-gakkai.jp/jos/wp-content/uploads/2013/11/2012Aoiumi_teian.pdf

お願い：シンポジウム開催時には、成果を報告する際に、会場で撮影した画像がホームページや報告書に掲載される場合がありますのでご了承下さい。ご協力をよろしくお願いいたします。